

帯状疱疹の早期治療について

麻酔科 発表者 太田君枝
西原三枝子・山本ひろ子

1 はじめに

ペインクリニックという言葉も、だいぶ日常的になってきた。当科外来も週1回紹介患者のみ受け、帯状疱疹（以後ヘルペスと呼ぶ）白ろう病、頸腕症候群、網膜色素変性症等、多くの患者さんが訪れている。最近、ヘルペス及び、ヘルペス後神経痛として紹介されて来る患者さんが目立つようになった。

ヘルペスの痛みは昼夜を問わず、ピリピリと焼けつくように、針で刺されるように激烈で、鎮痛剤も効かず、早期の交感神経ブロックのみが劇的に除痛効果をあげている。その上疱疹治癒も早く、ヘルペス後神経痛にもならず済む事を、私達はいく度か経験している。しかしブロック療法が、年令や治療開始時期によってどのような効果があったか、全体的に把握していないので、まずヘルペス患者の実態を知ろうと思った。それによって出された統計をもとにパンフレットを作成し、患者さんにヘルペスの疾患と早期治療について理解してもらおうと思い、この研究に取り組んだ。

2 ヘルペスと交感神経ブロック

ヘルペスの激烈な痛みが長く続くと、交感神経の過緊張が起こる。その結果障害部位の血行障害や筋攣縮をきたし、代謝異常を惹起して、これがますます大きな刺激を脊髄に送ることになり、悪循環が成立すると考えられている。この悪循環を長期間放置すると、障害部位が治癒して刺激がなくなっても、痛みのサークルだけが残り、他の神経線維にまで悪影響を及ぼす。早期に交感神経ブロックをすると過緊張は解除され、血行は良くなり代謝も改善されるので痛みがとれ、障害部位の治癒も早くなり、神経線維の変性も防ぐことができる。ヘルペス後神経痛はこの機序で説明されている。

当科で行っているヘルペスに対する主な交感神経ブロックは、頸、胸、腰部硬膜外ブロック、星状神経節ブロックである。用いる薬は1%キシロカイン、1%カルボカイン、0.3%ペルカミンS（ジブカイン）、0.15%ジブカイン、又それらの混合である。

3 当科におけるヘルペスの実態

昭和51年1月より昭和54年8月までに60余名のヘルペス患者が当科を訪れている。私達はまず受診状況と、治療成績等を知る為に上記の人を対象に往復ハガキに印刷したアンケートにより、追跡調査を行った。

- | | | | |
|---------------------------|---------------------|-----------|------------|
| ① ヘルペス患者の外来受診状況 | ② ヘルペス発症より当科受診までの日数 | | |
| 昭和51年度… 221人来診中5人（2.3%） | 3日以内……………4人 | | |
| 昭和52年度… 165人来診中15人（9.1%） | 1週間以内……………5人 | | |
| 昭和53年度… 196人来診中21人（10.7%） | 2週間以内……………4人 | | |
| 昭和54年度… 114人来診中19人（16.7%） | 1ヶ月以内……………21人 | | |
| 8月31日現在 | 1ヶ月以後……………26人 | | |
| ③ ヘルペス発症年令 | | | |
| 20才代………2人 | 30才代………1人 | 40才代………3人 | 50才代………13人 |
| 60才代………23人 | 70才代………17人 | 80才代………1人 | |

- ④ ヘルペス発症部位別
 胸部上腕…………… 28人
 顔 面…………… 18人
 頸 部…………… 7人
 腰 部…………… 5人
 下 肢…………… 2人
- ⑤ 治療後の疼痛（60通中48通回収）
 疼痛なし……………22人
 当科初診時より軽い痛み……………21人
 同じ位痛い…………… 3人
 （死亡…………… 2人）
- ⑥ 当科受診以前の治療法（60通中48通回収）
 軟膏療法と鎮痛剤 …………… 39人
 軟膏療法とブロック療法 …… 2人
 針麻酔 …………… 2人
 治療なし …………… 3人
 （死亡 …………… 2人）
- ⑦ この病気を知っていたか（同左回収）
 知っていた…………… 4人
 知らない……………42人
 （死亡…………… 2人）
- ⑧ 当科へ受診する前に交感神経ブロック療法があることを知っていたか（同上回収）
 知っていた…………… 7人
 知らない……………39人
 （死亡…………… 2人）
- ⑨ その他…現在治療を中断している人からの返答
 ・ブロックが恐くて治療が続けられない。
 ・痛みは軽減したが間隔があいてしまったので行きにくくなった。
 ・痛みは強いが掛りつけの医者に遠慮してしまった。

4 結 果

ヘルペスの紹介患者が4年間で2.3%から16.7%と増加していることがわかった。それにもかかわらず、2週間以内に紹介されて来る患者があい変わらず少ない。

次に当科に受診する前に受けた治療は、約80%の人が鎮痛剤使用と軟膏療法の併用であり、交感神経ブロック療法を知らなかった。又ヘルペスという病気も知られていなかった。

当科の治療成績を見ると、発症より2週間以内に交感神経ブロックを開始した12人については、7人までが10回以内の治療で完全除痛、4人は入院1ヶ月程で無痛となっている。1人はステロイド服用中で治癒が長びき、現在まだ軽い痛みがある。

このように2週間以内に治療を開始すると年齢に関係なく、ほとんどの人が無痛になっている。

2週間を過ぎて交感神経ブロックを開始した36人については、個人差、年齢差があり、ブロック回数も10回以内、30回～50回、入院2～3ヶ月とまちまちであるが、疼痛なし11人、治療前より軽い痛み20人、以前と変わらず痛い人が3人である。

2週間を過ぎて治療を開始した人でも効果は見られるが、経過が長く難治の人が多い。

この結果からも、いかに急性期の効果的治療が重要であるかがわかった。

5 パンフレット作成

以上の統計より、まずヘルペスについて理解してもらう為に、ヘルペスの症状、ヘルペス後神経痛の予防及び積極的な早期治療の必要性等を折り込んだパンフレットを作成した。

これを患者さん一人ひとりに配布し、待ち時間を利用して説明していると、「ブロック療法とはどんな事をするのですか」とか、「痛いのですか」とか、「その麻酔をしたら体が動かなくなって、元に戻らないのではないですか」等の質問が返ってきた。

私達は次にこのブロック療法に対する不安の除去の為に、硬膜外ブロック、星状神経節ブロックについて、方法、治療効果、安静時間、注意事項、異常時の連絡方法を折り込んだ用紙を作成し、治療

開始前に配布し、オリエンテーションを行った。

6 結果及び考察

今まで患者さんへのオリエンテーションが看護者側で統一されたものがなく、個人差があったり、落ちてしまうこともあったが、パンフレット作成により統一され、行き渡るようになった。それにより異常が起きた場合もすぐに知らせてくれる等、治療効果に対する適切な返事が返ってくるようになった。

又患者さん自身、どんな治療がなされ、どんな変化が自分に出て来るのか、理解した上で治療に臨むようになった為、少しは不安の軽減に役立てたのではないかと思われる。

7 終りに

漠然としてとらえていたヘルペスの実態が統計としては不十分であるが、裏付けがなされ、早期治療の重要性を改めて感じた。

ヘルペスが知られていない事と、前にも述べたが週1回紹介患者のみ受け付けていることもあって、2週間以内に治療を開始出来る患者が増えてこないことは残念に思う。しかしこの研究によって、治療が中断されていた人とのコミュニケーションが持てた為、再度治療を開始した人が出てきた事は、思わぬ効果となった。

このパンフレット作成を機会として、ヘルペスで苦しんでいる人に、早期交感神経ブロックを紹介したいと思う。

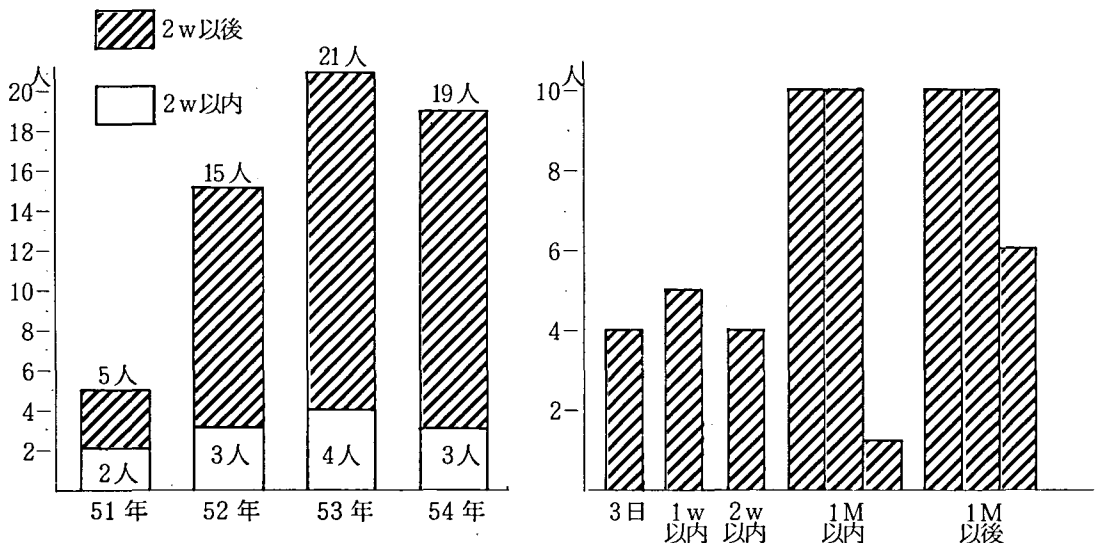
最後に、この調査研究にあたり御指導、御協力下さった方々に深く感謝致します。

- <参考文献>
- 皮膚病診療 1979年 Vol. 1 No 1
 - ペインクリニックの実際 兵頭正義著
 - 図解 痛みの治療 山本亨, 若杉文吉著
 - 関東通信病院ペインクリニック小冊子

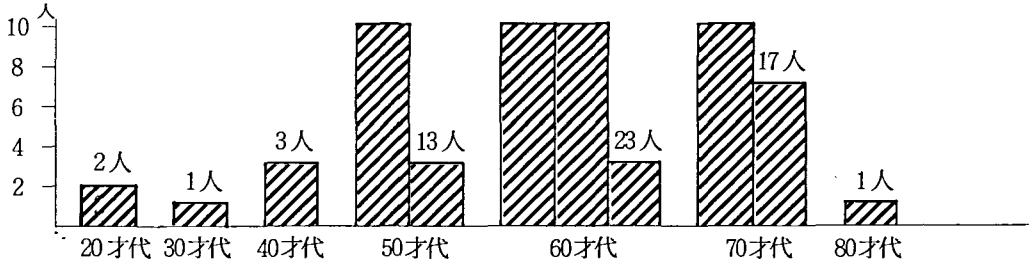
① ヘルペス患者の外来受診状況

② ヘルペス発症より当科受診までの日数

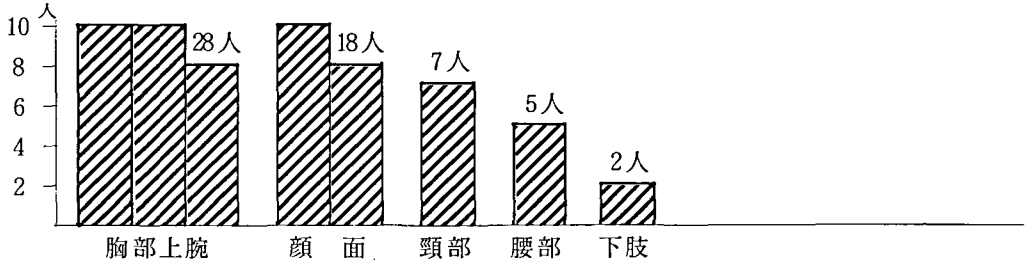
(S 51. 1 ~ S 54. 8. 31迄)



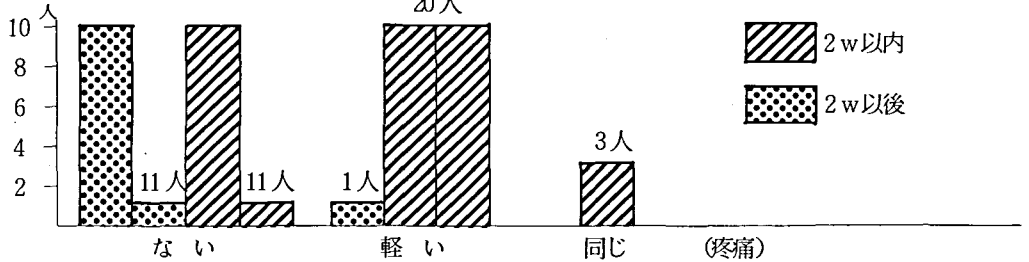
③ ヘルペス発症年齢



④ ヘルペス発症部位別



⑤ 治療後の疼痛



年代別治療開始時期と治療後の疼痛

年代	なし		軽い		同じ	
	2w以内	2w以後	2w以内	2w以後	2w以内	2w以後
20	1人					
30	1人	1人				
40	1人			1人		
50	4人	2人	1人	4人		
60	4人	6人		9人		
70		2人		6人		3人
80	1人					

硬膜外ブロック (S 54.7.1作成)

この治療は、頸、胸、腰部の脊椎の硬膜外腔に局所麻酔薬を注入し、血行を良くし、又痛みをとる方法です。

- ・治療前は…約1時間程の安静時間が治療後にありますので排尿、排便を済ませておいて下さい。
- ・治療時は…上半身裸になります。ベットに坐ってする方法と、横向きに寝てする方法がありますが横向きで寝て治療する場合は痛い方を下にして、えびのように背中をまるくして下さい。(薬は下になった方に効いてきます) 背中を消毒して、痛み止めの注射をしてから治療します。
- ・治療後は…痛い方を下にして15分以上、その後は楽な姿勢で約1時間、ベットでお休み下さい。途中で気分が悪くなったり、はき気がしたり、息苦しくなったらすぐに知らせて下さい。
- ・治療効果として…痛いところがあたたかく、しびれたようになって痛みがとれます。
- ・起き上がる時は…約1時間たって、しびれがとれてから、医師か看護婦に聞いてゆっくり起きて下さい。ふらつきのある場合は、もう少しお休み下さい。
- ・注意事項として…入浴は当日はしないで下さい。針を刺した所にはった絆創膏は、帰宅後その日のうちにはがして下さい。時に針あとが痛む人がいますが、1日程でなおります。帰宅する途中、又は帰宅後、めまい、はき気、頭痛、ふらつき等の症状があったらしばらく安静にし、それでもなおらない場合は信大麻酔科医局(0263 - 35 - 4600内線 5319)へ電話して下さい。

星状神経節ブロック (S 54.7.1作成)

この治療は首にある交感神経節に局所麻酔剤を注入し、頭、顔、首、腕、上胸部への血行を良くし、痛みを止めたり、病気の進行を止めたりする方法です。

- ・治療前は…約30分以上の安静時間が治療後にありますので排尿、排便を済ませておいて下さい。
- ・治療時は…枕をしないで仰向けに寝てまっすぐ天井を見て下さい。首を充分に露出して下さい。ネックレス、スカーフなどは、はずして下さい。首から肩の力を抜いて、手は体のわきにおいて下さい。首を消毒し注射をして治療を終わります。
- ・治療後は…治療した箇所を、反対の手で3～5分間きちんとおさえて下さい。気分が悪くなったりはき気がある場合はすぐ知らせて下さい。40分間(次回からは30分間)ベットで静かにお休み下さい。
- ・起き上がる時は…医師か看護婦に聞いて下さい。起き上がってみてふらつきのある時は、もうしばらくお休み下さい。又治療後15分以上たっても効果があらわれないと思われる時はお知らせ下さい。
- ・治療の効果として一次のような症状が現われますが、2時間位で元の状態にもどります。
 - 治療した側の顔から手にかけてあたたかくなる。
 - 治療した側のまぶたが重くなり眼が充血する。
 - 治療した側の鼻がつまる。
- ・時に次のような事が起こりますが、必ず元の状態にもどります。
 - 声がかすれる。声が出ない。のどがつまる。(こんな時は食事等に注意し、ひと口たべて何ともなければ普通量食べて良いです。)

◦手がしびれて力がいらない。(その手で物を持ったり、手をついたりする時充分気をつけて下さい。)

•注意……………車の運転は麻酔がすっかりさめてからにして下さい。

帰宅する途中、又は帰宅後、めまい、はき気、頭痛、ふらつき等の症状があったらしばらく安静にし、それでもなおらない場合は信大麻酔科医局(0263 - 35 - 4600 内線5319)へ電話して下さい。